

1週間ほど前から急に冷え込んで、冬が一足飛びにやってきたようです。クリスマスケーキ、おせち料理の予約もはじまり、街はすでに年末モードになってきました。次号は12月20日発行の予定です。  
現在会員登録数1,286人さま。ご愛読ありがとうございます！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 39

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 当財団編『子どもの本100問100答』（創元社）が好評発売中です。子どもの本に関わる質問や疑問を100問にまとめて答えた「子どもの本ハンドブック」。子どもに本を読んでほしいと願っている人や図書館、家庭文庫や読書推進に関わる諸団体のための手軽で便利な相談ツールとして編集しました。書店等でお求めください。

書名：子どもの本100問100答 司書、読書ボランティアにも役立つ  
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団/編

発行：創元社 2013年8月 A5判 224ページ 1,890円（税込）

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『かさねちゃんにきいてみな』 有沢佳映/著 講談社 2013年5月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学5年生で集団登校班の副班長ユッキーこと孝行の視点から、

クリスマス前までの6週間と、翌年4月始業式の日の日集団登校の様子が描かれている。班長は6年生で沈着冷静、マヤ文明に興味を持ち、班のためにシャム双生児が世界を救う物語を語るかさねちゃん、班には凶暴な1年生ミツや、学校では一言も話さない2年生のんたん、自閉症で母親に十分に世話してもらっていないリュウセイがいる。ユッキーは来年班長を務まるか不安になる。

○：学校や先生が全く登場しない学校物語とでもいえば、よいのか・・・

Y：かさねちゃんとユッキーがリュウセイのいるおばあちゃんの家でクリスマスプレゼントを届ける以外は集団登校の様子だけが描かれています。集団登校班というのは地域の異年齢の子どもと一緒に班を作るのでお互いの家族のこともある程度は知っており、家と学校の境界的な意味があり、ユニークな点に目をつけた作品だなと思いました。

○：登校の途中の校門の見える場所で、子どもたちは必ず、間宮さまというお地蔵さまにあいさつして、学校という修羅場へ入って行くのは、仕掛けとして抜群に効いていますね、すごいです。会話中心の展開の中で、ユッキーのお祈りから彼の内面を読み取ることができますし。

Y：登校中に「かっこいい言葉しりとり」や「こわい言葉しりとり」などをしたり、小学3年生、2年生の太郎次郎兄弟が、何かというと「エロい」などと口にしたりするなど、子ども同士の会話も過激で、笑ってしまいました。

○：反面、類型的な会話しかしないので、人物が単調になったとも言えます。かさねちゃんのお話の中にいじめられっ子や、社会的弱者が登場しますし、子どもたちの会話に口さげ女や超常現象などがよく出てきて、不安の多い現代社会のなかの子どもをうまく映していますね。

Y：かさねちゃんの物語は、どんな子どもも物語によって勇気づけられ、生きる力を得ることができるというメッセージを読み取りました。さまざまな家庭環境や学校生活を送る難しさを抱えている子どもがでてきます。中でもリュウセイは家の電気が止められて母親が家出するなどの状況が描かれ、自身も自閉症のようで学校で多くの問題を起こしています。

○：リュウセイについては、ユッキーが他の班に悪口を言われると腹がたつと言うところに、共感しました。うまいなあ、おもしろいなあと思いながら、突っ込んだり、踏み込んだりしない人間関係に留まっているので、現代の人と人との距離感を感じさせられた作品でした。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 39

\*\*\*\*\*

### その7 プログラムの立て方（1）テーマは必要か

ボランティアの方に「おはなし会にテーマは必要ですか」とよく聞かれます。その答えはとても難しいですが、初心者の方にはテーマの設定をおすすめします。おはなし会は通常、20分～30分間を一つのまとまりとして行います。一冊一冊の本やおはなしがどんなにすばらしくても、全体がばらばらだと、全体を楽しんだという気持ちが薄れます。逆にまとまりがあると、一冊の絵本、一つのおはなしが、それぞれ相乗効果を持ち、全体としてより楽しむことができます。

おはなし会が一つのテーマでまとまっていることによって、例えば、「雪」というイメージでも雪国の暮らしもあれば、吹雪もあれば、雪あそびもあるというように、物語を重ねていくことによって、一つのイメージが幾重にも広がるおもしろさを表現することができます。そして、テーマがあることによって、本を探すことが容易です。

一方、おはなし会の中におはなし（すばなし、ストーリーテリングとも言います。ここでは厳密な定義はしません）が入るとすれば、語り手のレパトリーが決まっているので、おはなしとテーマを合わせようとするばかりに多様な絵本が読めないという事態も起きます。

テーマをどこまで厳密に考えるかということにもよりますが、例えば、「知恵を使った話」や「不思議な生き物が出てくる話」など、おはなしとの関連性を考えながら絵本を選ぶことができます。いずれにせよ、季節感は必要ですので、季節の中でおはなしや絵本を選ぶというぐらいの大きなくくりでもいいかもしれません。

また、プログラムの中のおはなしや絵本がすべて同じテーマでつながってなくても、続くおはなしや絵本に関連性がある数珠つなぎのような構成でもまとまりを持つことができます。しかし、これは一つのテーマで統一するより難易度が上がります。熟達した方になると、参加者の状況を見て、おはなしや絵本を複数用意しながら、うまくつなげていくということができますので、テーマにこだわりすぎず、臨機応変にした方が、おはなし会本来の目的に沿うでしょう。

大切なことは、事前打合せもなく、持ち寄った絵本やおはなしを適当に順番に語ったり読んだりしたら、まとまりのないおはなし会になってしまうということで、それを避けるためにはプログラムを立てることが必要だということです。

\* 次号は「その7プログラムの立て方（2）全体の構成を考える」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

\*\*\*\*\*

《3》 サイト紹介 一子どもの本をリサーチする一

\*\*\*\*\*

一次資料データベース篇 19 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

●国文学研究資料館 電子資料館 蔵書印データベース

[http://base1.nijl.ac.jp/~collectors\\_seal/](http://base1.nijl.ac.jp/~collectors_seal/)

蔵書印とは、本の所有・所蔵者が、蔵書に押ししてその所有を示す印のことです。西洋では主に蔵書票が使われたのに対し、東洋では蔵書印が発達、我が国では古く奈良時代から蔵書印が見られるそうです。

国文学研究資料館では、所蔵する和古書目録をはじめ他館所蔵資料などからも蔵書印を蓄積し、それに典籍（本の情報）、蔵書印（印影の情報）、蔵書印主（所有者の情報）などを加えてデータベース化・公開しています。（収録蔵書印数は、本年9月現在で18,437件）

データは、和古書など古典籍が多いようですが、それでも近代以降のもの、特に児童文学・児童文化に関連のあるものも見られます。例えば、明治の先達・巖谷小波の蔵書印。〈漣山人の〉や〈巖小波〉といったバリエーションの蔵書印が見られ、それらは『可笑記』や『絵本小倉山』『戯男以世物語』（近世の滑稽本）などに押印されています。小波がどのような蔵書を有していたかを知るうえでも貴重です。

その他にも、小波『こがね丸』の挿絵を描いた武内桂舟をはじめ、森田思軒、石井研堂、秋田雨雀、野口雨情、与謝野晶子ら、児童文学にも関係が深い作家たちの印影が収録されています。名称そのままの印もあれば、全く別名の印影もあり、個人的な蔵書印として見て楽しむこともできます。

こうした蔵書印を蓄積することは、特定の個人がどのようなコレクションを有していたのかという蔵書に関わる個人研究に有用なだけでなく、その本の来歴（出版されてからの流通過程の一端）や変遷を辿ることで、個々人の文壇的ネットワークなどを考証できる可能性をも持っています。今後、国内の関連機関が有する資料も調査対象となり、データベースがさらに充実していくことを期待します。（J）

※次号は、一次資料データベース篇〈その20〉の予定です。

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

大阪梅田の阪急百貨店9階ギャラリーで開催されている「リサとガスパール 絵本原画展 2013」に行ってきました。

アン・グットマンとゲオルグ・ハレンスレーベン夫妻による、うさぎでもいぬでもない動物のリサとガスパールの日常が描かれた絵本です。阪急に登場して今年で10年ということで、最初のコーナーでは、これまで阪急のクリスマスのために書き下ろされた原画が展示されています。そして、シリーズ最新刊『リサとガスパール ゆうえんちへいく』の原画のコーナー、今年のテーマ「ふたりはトフトモ（永遠の友達）」のイメージにあった原画を集めたコーナー、さらに夫妻による別のシリーズ「ペネロペ」のコーナーに分けられています。

油絵具やアクリル絵具で描かれた、縦が1メートル以上あるものから絵本サイズのものまで、たくさんの原画があらずじととも紹介されていて、絵本で見るよりも力強くいきいきと迫ってきます。また、絵本の下書きや使いやすいうように工夫された道具も展示されています。いくつかの場面は人形で再現されていて、幼い子どもたちも楽しんでいました。

1階コンコースに面した大きなショーウィンドウのディスプレイは、すっかり冬の風物詩となっています。雪が降るウィンドウの中に、暖かそうなクリスマスの飾りつけとともにリサとガスパールが楽しそうに動いていて、思わず引き寄せられてしまう人がたくさんいました。（K）



### 【3】全国のイベント紹介

#### ●「こどもと本」香里ヶ丘市民学級 3回講座

「小公女」と「秘密の花園」に込められているパーネットの子ども時代

12月12日(木) 自主学習会「パーネットについて」 受講料 無料

1月16日(木) その1「小公女」の再読 受講料 1500円

1月30日(木) その2「秘密の花園」の再読 受講料 1500円

講 師：三宅興子(大阪国際児童文学振興財団理事長) 1月の2回のみ

時 間：各回 午前10時～12時

会 場：枚方市立中央図書館 6階(大阪府枚方市車塚)

申込み：必要

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきますノ

### 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『かさねちゃんにきいてみな』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.39プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

締切は12月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきますノ

### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

今年は秋があったのか。つかの間の秋は休日行事が多い季節でもあります。国際グリム賞講演会、おはなしモノレールなど続々と。加えてプライベートでは、孫たちの運動会に七五三、親戚の結婚式、予定外の義母の入院まで。次々とせわしなく行き過ぎ、そのまま師走に突入するのであります…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp